

資料室だより 114

Samuel Mareschal: Der Genfer Psalter in Bearbeitungen für Tasteninstrumente

(鍵盤楽器用に編曲されたジュネーブ詩編)

ザムエル・マレシャル (1554-1640) というフランドル出身で、スイスで活躍した改革派の作曲家についてはあまり知られていないかもしれません。当資料室にも楽譜が 1 冊もありませんでした。スイスのバーゼルで作曲家、オルガニスト、教師として活躍した人です。ここに紹介するのはカルヴァン派のジュネーブ詩編 (ユグノー詩編) を器楽用にアダプテーションしたものの批判的校訂版です。ジュネーブ詩編の歴史的な重要性については資料室だより 28、また「辻一文庫 (6)」に書きましたので参照なさってみてください。彼は宗教改革後バーゼルで活躍しており、改革派の讃美歌を奏樂するためにタブラチュア譜を残しています。2つのタブラチュアからの校訂楽譜がここに紹介する楽譜です。

皆さんもよくご存知のバッハのオルゲルビュッヒラインにも所収されている“O Mensch, bewein dein Sünde gross” (おお、人よ、汝の罪のおおいなるを嘆け) の原旋律はジュネーブ詩編 36 番、“Du maling le menschant vouloir” です。原曲のファクシミリを見ますと (資料室所蔵番号 MC6/J95/3) 会衆が全員で歌うものなので大変素朴で簡素です。それをオルガンでどのように美しくパラフレーズしながら歌を支えたかという実践がよくわかります。当時のディミニューションの技法を駆使していますので独奏曲としても成立します。このように簡素で単純な讃美歌を土台として豊かな教会音楽が鳴り響き、音楽史を潤しているわけです。この 36 番などは四句節にオルガンで Meditation のために奏樂することもできます。出自は改革派ですが宗派を超えて愛されている旋律です。

スイス音楽学会 Société Suisse de Musicologie による校訂で、タブラチュアの若干のファクシミリ、源泉史料についての充実した Kritischer Bericht (校訂報告) が掲載されています。

ちなみに当資料室に所蔵する改革派讃美歌は先に述べた《辻一文庫》の Calvin's First Psalter (ファクシミリ)、と当時の改革派の作曲家グディメルらが和声付けした美しい 4 声体の讃美歌をオリジナルの音で知ることができる“Mazmur edisi harmoni”、また日本の改革派教会で出版された「ジュネーブ詩編歌抄」(全曲ではない)、「36 のジュネーブ詩編歌」があります。同じく「改革教会と音楽」という逐次刊行物が 1999 年から刊行され、資料室にも所蔵しています。改革派の讃美歌のテキストは詩編しか許されていないので、すべては詩編歌です。それに対する歴史的探求を倦むことなく続けておられる改革派の方々に敬意を表します。

(この楽譜はエッツァルト・ヘアリン牧師がカントゥス・カヌムを率いて来日されたときに聖グレゴリオの家いただいたものです)

杉本ゆり記